

新潟大学五十嵐の森チャレンジャー キャンプについて

大 橋 正 春

はじめに

最近の学校において問題となっている、いじめ・登校拒否等に代表されるように、教育の見直しがなされている。その対応策の一つとして野外教育の重要性を挙げることができる。集団生活を通して共同的協動的資質を養うことは、教員養成教育にとって重要な課題である。さらに、社会体育としても野外活動が盛んに取り上げられるようになってきており、学校キャンプさらには公民館や町内会等における生涯スポーツとしての野外教育プログラムの開発研究が急務である。そのためには、大学構内のみじかなところで数多くの野外教育プログラムを実践する必要がある。五十嵐の森キャンプ場でキャンプをすることにより、今後全学的にも地域社会への貢献度も非常に大きなものとなり、開かれた大学としても地域住民へのアピール度を増していけると考える。

今回の五十嵐の森チャレンジャーキャンプは、それまでのファミリーキャンプを、平成17年度より小中学生を対象に変更したものであり、もちろん希望する親の参加も可能である。このチャレンジャーキャンプをとりあげ、参加者へのアンケート調査をもとにプログラム内容を検討し、今後の資料とするものである。

1. 2006 第9回 五十嵐の森チャレンジャー キャンプについて

① 受付・開講式・アウトドアゲーム

募集要項にもあるように平成18年10月8日（日）～10月9日（月）の1泊の日程で、第9回五十嵐の

森チャレンジャーキャンプが開催された。参加者は近隣の小学生がほとんどであったが、昨年も参加した子どももおり、「楽しかったので今年も来たよ」「今年も学生のお兄ちゃんに会いに来たよ」とのうれしい言葉がかえってきた。10月8日の13時頃から参加者が、五十嵐の森キャンプ場にぞくぞくと集まってきた。しかし、ここでキャンプをするときにはいつも問題になるのが、西門や正門にある大学の案内図に、五十嵐の森キャンプ場がいまだに載っていないので、参加者が迷ってしまうことである。これも早い時期に載せてもらいたいものである。募集要項にもあるように、小学3年生以下は保護者同伴にしているのと、家族で参加するグループもあり親も一緒にキャンプに加わるのと、心配そうに子どもだけキャンプ場に置いて帰る親が印象的であった。受付をして参加者各自で名札に名前を書いてから、14時頃に開講式を始め、参加者を6班に分けて自己紹介をしてキャンプがスタートした。まず初めに、アウトドアゲームとしてプロジェクトアドベンチャーを実施した。このゲームは班全員の協力がないと成功しないので、初めて会う子ども達も協力してすぐに仲良くなれるので、プログラムとしては、早い時期に実施するのがよい。ゲームの内容としては、

- ・クモの巣（木の間に張り巡らしたロープを触らないように協力して全員でクリアする）
- ・ラインナップ（地面に埋めた丸太に全員で乗り、丸太から落ちないように協力して決められた順番に並び替える）
- ・日本列島（地面に埋められた大きな木に全員で5数えるまで静止する）
- ・タイヤの木（地面に埋めた丸太に細いタイヤを入れたり、抜いたりする）
- ・カモフラージュ（決められた範囲の中に自然の物ではない、人工の物を見つけ出す）

2006 第9回

五十嵐の森 チャレンジャーキャンプ

参加者募集

キャンプをしたい子どもたち集まれ!

キャンプしてみたい!

自然の中で遊びたい!

テントに泊まってみたい!

アウトドアクッキングがしたい!

...そんな夢を新潟大学の

「五十嵐の森」でかなえます!!



主催 NOES ~新潟県野外教育研究会~

後援 新潟市教育委員会

～募集要項～

- ◇会 場 10月8日(日) 13:30～10月9日(月) 11:30 ※雨天決行
- ◇会 場 新潟大学内 五十嵐の森キャンプ場(サッカーラグビー場と野球場のとなり)
- ◇内 容 テント泊、キャンプファイヤー、アウトドアクッキング、アウトドアゲーム等
- ◇対 象 小中学生(小学3年以下は保護者同伴) ※先着40名まで
- ◇参加費 1,000円(食材費、保険料)…当日受付で納入
- ◇問い合わせ・申し込み **※一切は9月末日**

※お申し込みは、ハガキをお願いします。

郵便→〒950-2181

新潟市五十嵐2の町8050番地

新潟大学教育人間科学部 大橋正春 宛

TEL→08031491895



- ◇ 持ち物 ・参加費 ・懐中電灯 ・虫除け ・米1合 ・雨具 ・タオル ・軍手
・飲み物 ・水泳ゴーグル ・空の牛乳パック1% (切り開かず) 2個

※ テント・寝袋・食器等の用具は全て無料で貸し出します。

～主な日程～

【1日目】

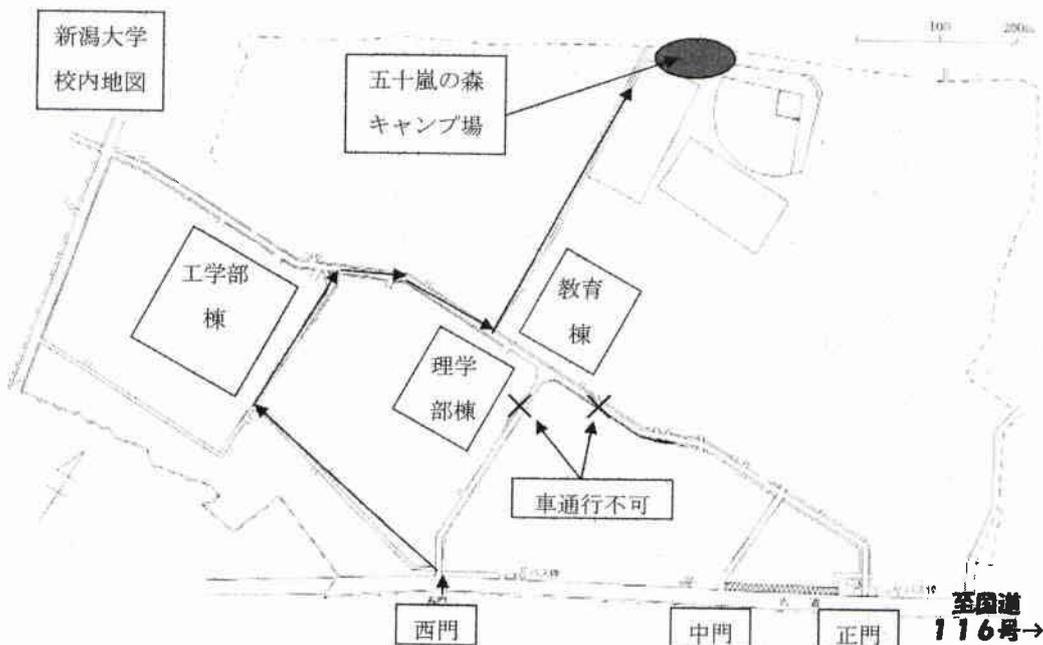
- 13:30 受付
- 14:00 開講式・オリエンテーション
- 14:30 アウトドアゲーム
- テント設営
- 16:30 アウトドアクッキング
- 夕食
- 自由時間
- 19:30 キャンプファイヤー
- 自由時間
- 21:30 テント
- 就寝

【2日目】

- 7:00 アウトドアクッキング
- 朝食
- 9:00 アウトドアで楽しむ
・クラフト ・ゲーム等
- 10:00 お琴を楽しもう
- 10:30 テント撤収
- 11:00 閉講式
- 11:30 解散



五十嵐の森キャンプ場地図 (新潟大学五十嵐キャンパス内)



Niigata Outdoor Educational Studies

～新潟県野外教育研究会～とは

新潟大学教育人間科学部 大橋正孝教授を会長に、学校教育や社会教育に携わる人や、野外活動をこよなく愛する人たちが集まり、野外活動の普及を目的として発足した会です。つまり、野外活動の専門家（プロ）の集まりです！

現在60名程の会員が年数回の研修会や総会、野外活動を通して楽しく活動をしています。主な年間のイベント活動は、夏の五十嵐の森キャンプ場整備&キャンプ、秋のチャレンジャーキャンプ、冬のスキーキャンプなどです。詳しい内容は下記のホームページをご覧ください。

また、野外活動に興味のある方、一緒に活動してみませんか！会員は、随時募集しています。お問い合わせ、お申し込みは大学研究室か下記のホームページからメールでお願いいたします。

TEL・FAX→025-262-7079 (新潟大学教育人間科学部 野外活動研究室)

URL→<http://homepage3.nifty.com/NOES/index.htm>



以上のように、班毎にそれぞれのゲームに挑戦して、苦労はしていたもののすべての班が協力して見事クリアしていた。このゲームが終了するころには、班の団結力も増したように見受けられた。

② テント設営

班毎にテント設営を行った。テントはドームテントで、6人用で天井も高く居住性もよく、ジュラルミンのポールも軽く、全員で協力すれば短時間で簡単に設営する事ができ、アウトドアを始める人にとっても参考となりえる。このテント設営に関して気を配らなくてはならないことは、雨が降って来ることを考えて、フライシートを張り綱でしっかりと張り、ペグで固定することである。また、夜暗くなってから張り綱等でつまづかないように目印の布をつける工夫も必要となる。今回は10月のキャンプであるので、蚊や蛾等の心配もなく快適なキャンプをすることが出来るので、これからキャンプを始めようと考えている人には、秋や春のキャンプがお勧めである。テント設営もすべての班が終了して、テントの中にテントマットを2枚敷いて、人数分のシュラフ、自分達の荷物も入れていよいよアウトドアクッキング開始である。

③ アウトドアクッキング (夕食作り)

キャンプの定番であるが、カレーライス作りに挑戦である。各班とも、それぞれ係分担をして、米を洗う人、じゃがいもと人参とたまねぎを切る人、まきで火を起こす人等それぞれみんな一生懸命挑戦していた。子ども達の中には、初めて料理をする子どももいたが、大学生や上級生、親に教えてもらいながら一生懸命な姿がとても印象に残っている。料理も実際に包丁を使ってみなければ上達しないわけで、このような経験は本当に必要だと強く感じたところである。最近ほとんどまきで煮炊きをする機会はなくなってきているが、このキャンプではすべてがまきで料理するので、慣れないと火を燃やすのはなかなかむずかしいものである。しかし、子どもは火を燃やすのが大好きである。このような機会に火の大切さ、恐さ、むずかしさ等を十分に教えて経験させることが必要である。やはり、野外でのキャンプには実体験が一番である。野外炊飯をする際に必要な用具としては、普通はあまりのせないのだが、水泳ゴーグルを挙げる事ができる。毎回キャンプをする度に強く感じることであり、特に子どものキャンプには是非とも持ち物の中に入れておきたい。飯

盒を炊くときには、いろいろな方法があるが、確実に上手く炊くには、ふきこぼれてきたら飯盒のふたを開けて、炊け具合をみて確認することが、子どもや初心者にとっては良い方法であると考えられる。また、キャンプでのカレーライスは普段より子どもはいっぱい食べるので、ごはんを多めに炊くことをお勧めする。そして、水加減は飯盒の目盛りより多めにすることが、おいしく炊けるコツである。カレーライスの他に、知り合いからいただいたギスをみんなで腹をさいてはらわたを取り、ひもにつるして干物作りにも挑戦させた。普段はなかなか魚を直接触ることがないので、子ども達はおおさわぎになったが、一人2匹ずつ作った。写真にもあるように、この干物を炭で焼いて子ども達に食べさせたのだが、われさきにと皿を出してぺろりとたいらげてしまったのには本当にびっくりした。このように、普段は食べられないようなものも、野外でみんなで食べればなんでもおいしく食べられるのは、キャンプの一つの効果と考えられる。カレーライスをいっぱいおいしく食べたのは言うまでもない。夕食が終わり班毎にあとのかたづけにとりかかった。ここで参加したお母さんから、「子ども用にもう少し低い洗い場があるといいですね」との要望があった。さらに五十嵐の森キャンプ場には、電気が引いてないので夕食のかたづけの頃には暗くなってしまい、ランタンやろうそくを利用しての不便さがある。グラウンドでナイター練習をしているときには明るいので、かたづけは出来るだけ早い時期に電気を引いて欲しい物である。

④ キャンプファイアー・星座観察・ナイトハイキング

19時30分頃から全員でキャンプファイアーを実施した。ファイアーは一般的な井桁型にまきで組んで、その周りに班毎に並びスタートした。ここで特筆することは、前回のキャンプに参加した1年生の女子がファイアーに火をつける役である、火の女神に立候補してきたのである。前回のキャンプで火の神、火の女神を見ていて、自分でもやってみたいとのことであった。彼女にとっては、キャンプファイアーは新鮮であり、火の女神は特別な意味を持ったものと考えられる。みんなで歌をうたって、ゲームをして心から打ち解けて楽しんだキャンプファイアーであった。また、その夜は天気もよく星も大変きれいに出ていたので、星座観察をして夏の大三角形がはっきりと見えたのにみんな感激した。天体望遠鏡も

用意して、月や星座も見る事ができたので、参加した子どものなかに星座に興味をもった子がいてくれたら幸せである。さらに、ファイアーの残った火で焼き芋を作ろうということになり、じゃがいもとさつまいもを濡らした新聞紙に包み、アルミホイルでくるんで火に入れて焼き芋のできるのをみんなで楽しみに待った。そのうちに、焼き芋ができるあいだに肝試しをしたいという声があがった。それではと、学生カウンセラーを1人ずつつけて班毎にナイトハイクをすることに決定した。キャンプ場から馬術部の厩舎を通り、大学の森を抜けて、農学部裏を通り、サッカー場の脇を通ってキャンプ場に戻ってくるコースで行った。このように、子どもの希望にあわせて、可能な限りプログラムを追加することもキャンププログラムの開発研究につながると考えられる。各班は20分から30分の間にキャンプ場に到着して、できあがった焼き芋をおいしそうに食べていた。また、チロチロと最後に残った炎を見ながら、満天の星空のもとでお話をする、親元を離れてのキャンプ、子どもにとって大きく成長するとてもいい機会であり、キャンプの醍醐味ではなかろうか。学生にとっても大きな収穫となったことであろう。

⑤ テント泊

キャンプをするときの楽しみのひとつにテント泊を挙げることができる。家からも親からも離れてのテント泊は、子どもにとって不安でもあり、なにかワクワクするようなられしいものであろう。写真にもあるように、班毎に6人用ドームテントを6張り建てておいた。子ども達はさっそく自分達のテントに入り、シュラフにもぐりこんで今日の出来事や学校のこと、あそびのこと等話をはじめており、友達同士や今日はじめて会った子どももいるのだが、ずーと前からの友達のように、学年も学校も違う子ども同士がこのように同じテントで話し眠ることは、キャンプの最大の利点と言えよう。

⑥ アウトドアクッキング(朝食作り)

子ども達の朝は早く、5時頃にもう起き出していた子どももいた。テント泊はなにか興奮し、キャンプがうれしくてついつい早起きしてしまうものである。6時頃に全員で朝の体操を行って、さっそく班毎に朝食作りにとりかかった。ホットドック用のパンに切れ目をいれて、キャベツの千切りとウインナーソーセージをのせてケチャップをかけ、それをアルミホイルで包み各自持参した牛乳パックに入れてか

まどで火をつける。牛乳パックが全部もえたら、カートンドッグの出来上がりである。1人で2本づつ作り、出来上がった班からスタッフが作っておいたコンソメスープをもらいにきて朝食の開始である。この牛乳パックで作るカートンドッグは子どもでも簡単にでき、自分で作ったという実感もあり、キャンプの朝のメニューとしてお勧めである。班の中には小さい子どももおり、なかなかうまくいかない時には高学年の子どもが手伝っている光景も見受けられ、すばらしいことであると感じ、これも異年齢の子ども達のキャンプの利点であろう。さらに、食器等もあまり使用しないのであとかたずけも簡単に時間も有効に使える利点もある。

⑦ アウトドアで楽しむクラフト・ゲーム(選択プログラム)

8時30分頃から2日目のメインであるクラフト・ゲームにとりかかった。種目としては7種類を用意してそれぞれの種目に学生カウンセラーを配置した。

- ・ストーンペインティング(石に自分の好きな絵を書く)
- ・紙ブーメラン(厚紙に印刷されたブーメランをはさみで切り、セロテープとホチキスでとめて飛ばす)
- ・紙皿まわし(紙皿を3~4枚重ねてガムテープでとめ、紙コップを2個重ねてカッターで切り、飲み口のほうを重ねた紙皿にガムテープでとめる。割りばしを2本のばしてガムテープでとめて紙皿を回す)
- ・牛乳パック笛(牛乳パックを細長く切り、7cmと4cmの2つの長さを用意し2つを組み合わせセロテープでとめ、ホイッスルの形状にして吹く)
- ・木の枝で作るパチンコ(二股の木の枝を使い、幅の広い輪ゴムとグローブの皮を使ってつくり、的当てをする)
- ・新聞紙フリスビー(新聞紙を細長く折って芯を作り、その上に新聞紙を張りガムテープでまわりをとめ飛ばす)
- ・ゲーム(ミニサッカーをやりたい子どもが集まった)

子ども達は自分の好きなものになんでも挑戦していた。最近ではテレビゲームに代表されるように、自分で作ったりすることがほとんどなくなってしまっているが、クラフトは人気のプログラムの一つである。写真にもあるように、パチンコ作りも人気があ



写真1 アウトドアゲーム (タイヤの木)



写真4 ギスの干物を食べよう



写真2 アウトドアゲーム (くもの巣)



写真5 キャンプファイヤー



写真3 夕食 (カレー) 風景



写真6 テントをバックにクラフトの相談



写真7 自分で作ったパチンコを持って



写真10 閉講式



写真8 お琴を楽しもう



写真9 テント撤収

り女子も作っての当てを必死にやっていた姿が印象深い。牛乳パック笛は以前にCLICKで講座を開いた時に、参加者の方から教えて頂いたのを取り入れたもので、笛が鳴った時の子どもも親もうれしそうな顔が忘れられない。ストーンペインティングでは、ポスカを使って大小いろんな石ですばらしい絵を次々と描いていた。これらの石はすぐには手に入らないので、実習や野外に出たときに河原や海で拾ってきたものであり、最近石のあるところではすぐにストーンペインティングのことが頭に浮かんでくるようになってしまっている。それもみんな子ども達のうれしそうな顔が浮かんでくることによるものであろう。

⑧・お琴を楽しもう

この催しは今年がはじめての試みであり、芸術環境創造課程音楽表現コースの学生（邦楽プラクティカ）の皆さんが、五十嵐の森チャレンジャーキャンプのプログラムの一つとして、企画していただいたものである。写真にもあるように、10月9日は晴天に恵まれて、子ども達もお琴の生演奏を聴き、実際にお琴にも触れる機会を作っていただき、体験曲はディズニーの「ミッキーマウスマーチ」を弾いて楽しんでいた。このように、子ども達は野外で生演奏を聴く機会はなかなかなく、キャンプと音楽との出会いを通してはこれまでなかった分野であるので、今後合同で是非とも開拓していきたいものである。

⑨ テント撤収・閉講式

1泊2日のキャンプはあっという間に過ぎてしまったというのが感想である。毎年思うのが、あれもしたいこれもさせたいと考えられるのであるが、本当

表1 プロジェクトアドベンチャーはたのしかったですか。

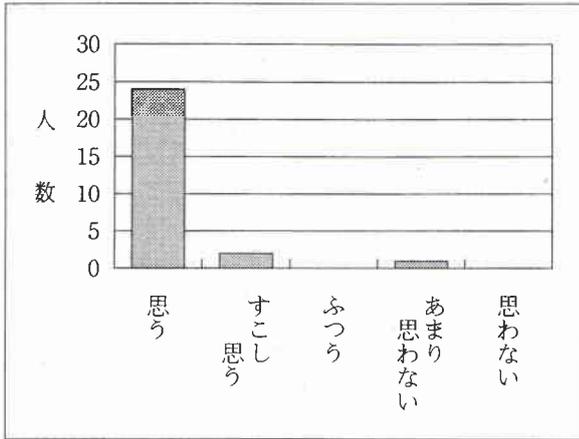


表4 集団行動は上手いきましたか。

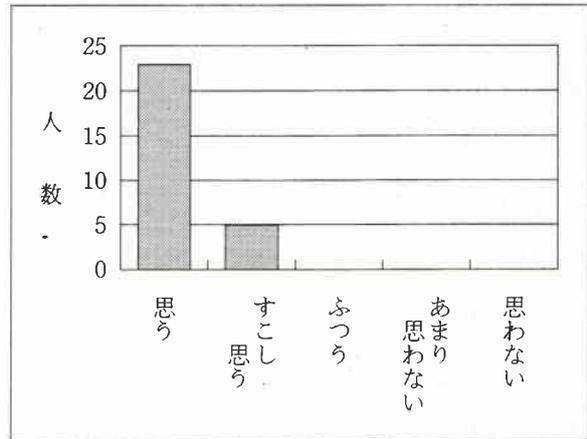


表2 プロジェクトアドベンチャーで何が楽しかったですか？

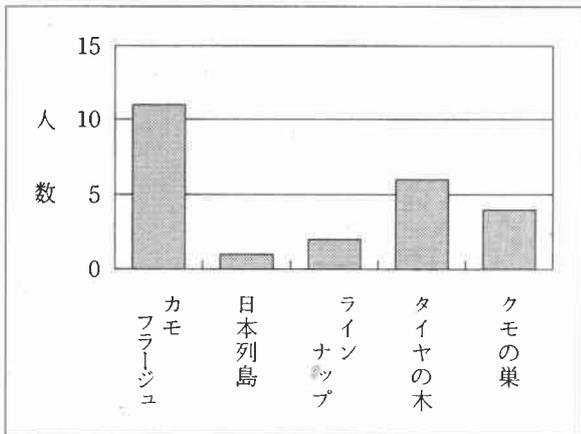


表5 選択プログラムは楽しかったですか。

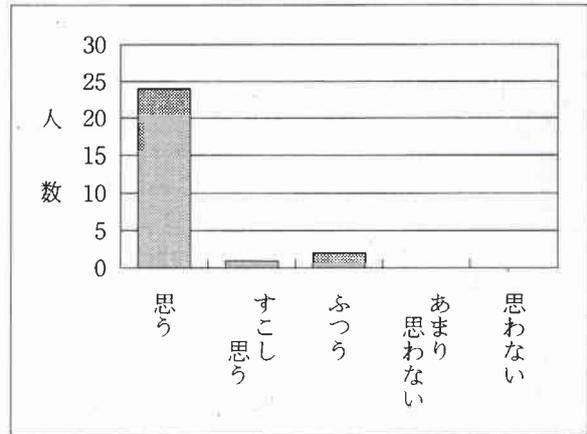


表3 家や学校では学べないことを学ぶことができましたか。

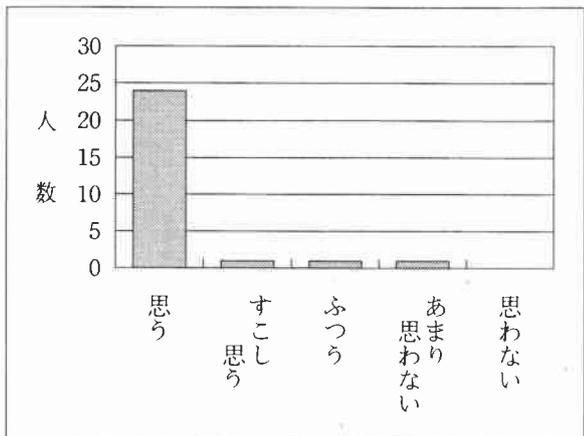


表6 選択プログラムは何が楽しかったですか。

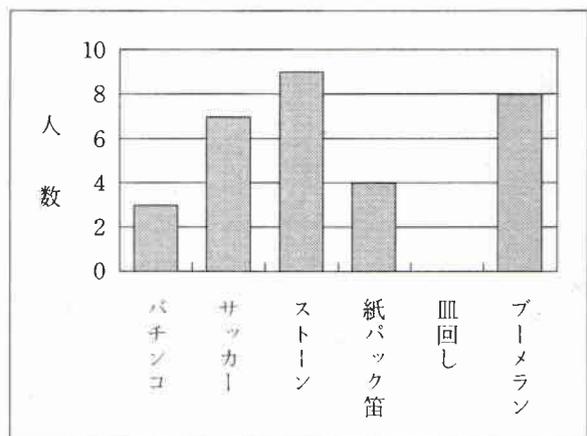


表7 普段と違う友達との交流は楽しかったですか。

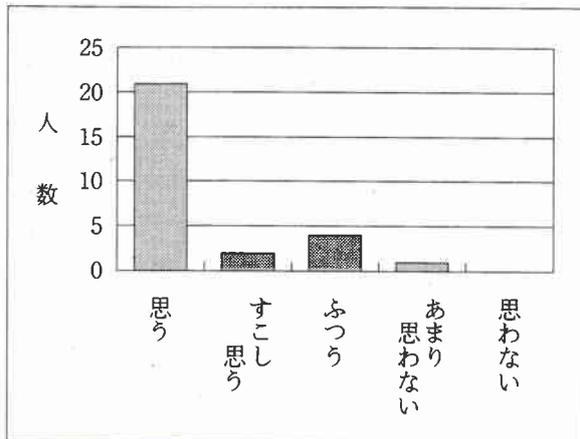
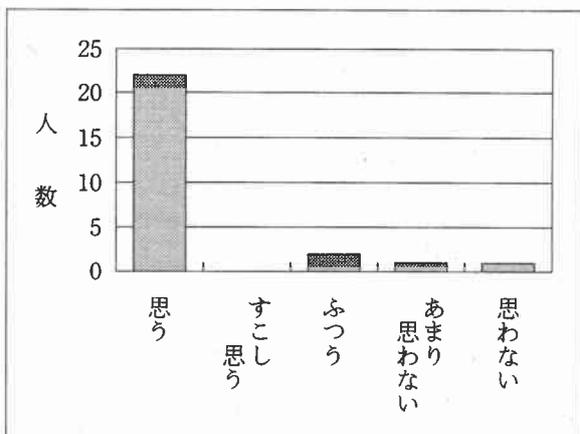
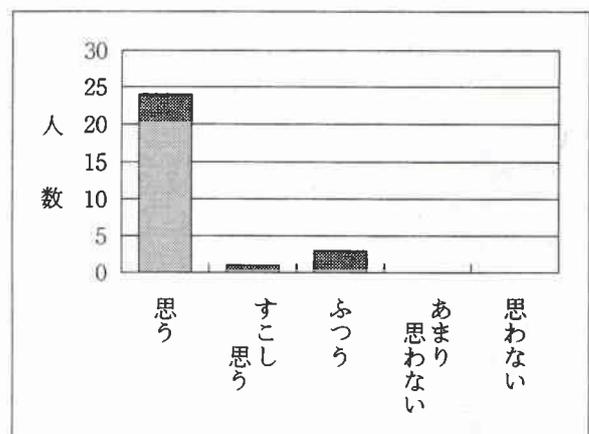


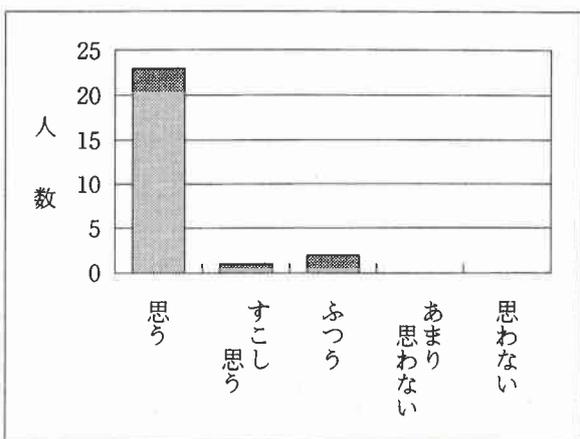
表8 ① <野外炊飯> 包丁を安全に使えましたか。



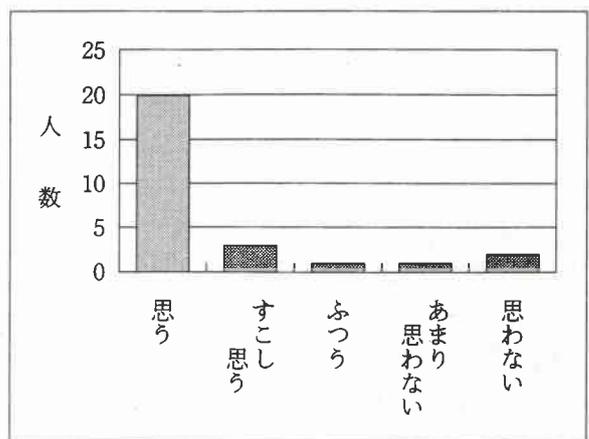
② <野外炊飯> みんなで協力してできましたか。



③ <野外炊飯> 野外炊飯をまた体験したいですか。



④ <野外炊飯> 上手く火を起こせましたか。



ができたこと」

- ・「ちがう学校の人とあそんだこと」
- 表8の野外炊飯についての問いには、それぞれ包丁を安全に使えたこと、みんなで協力できたこと、また体験したい等についてはそれぞれ高率を示しており、キャンプでの効果が上がってきているのではないだろうか。しかし、上手く火をおこせたかについては、むずかしさもあり今後経験を積むことが必要である。自由記述については、その他にも
- ・「さいしょは、たのしくないかなーと思ったけど、きたらたのしかったです。たのしかったのでまたきたいです。」
 - ・「ぼくはこのキャンプで、いちばんまなんだことはずこうをいっぱいたのしくつくれました。とってもたのしかったです。」
 - ・「水あそび、火あそびが、とってもたのしかったです。とってもたのしくて、はしゃいじゃうほど、たのしかった。」
 - ・「さいしょ楽しかなーと本当は、思ってた。ゲームや工作がとーても楽しかった。12月は大学生のみんなが来るといいな」
 - ・「たのしかったです。また来たいです。キャンプは四回目なので、またまた次からもいけるものは、どんどんさんかしていきたいです。」
 - ・「協力すれば、なんでもできると思った。」
- いろいろ不安はあったが、実際にキャンプに参加してみて子どもたちは本当によかったとの感想を述べてある。
- さらに、親からの自由記述を見てみると
- ・「普段できない経験。自然の中での遊びが一番楽しかった」
 - ・「キャンプで学んだことは、自然と共に遊ぶ事。自主性」
 - ・「日頃、こういう機会がないので、とてもたのしかったです。また、機会があつたら、参加したいと思います。今後も、続けて行って下さい」
 - ・「知らない人と一緒に行動できるか不安だった」
 - ・「新大生には、学校でもとてもお世話になっています。とても楽しかったです。今度はとん汁なんか作ってみたいです。ありがとうございました」
 - ・「場所がよくわかりませんでした」
 - ・「迎えに来て15分程子供達の様子をみただけですが、たのしそうですね。それぞれが好きな遊びを選んでいますが、なかなか家の周りではでき

ない様な事をのびのびとしていました。」

- ・「班ごとや全体での活動、学生がやさしくてよかった。予想以上に楽しめ満足です。また参加したいです。」
- ・「子どもが発想した遊びで遊べるような場所や支援があるとよいと思う」
- ・「とても楽しかったです。でも親はとーっても疲れるので、できれば土ようがよかったです。次の日ゆっくりできるので」
- ・「平日でなくできれば土、日にこのようなことがあればぜひまた参加したいと思うし、もう少し広めてほしいです。」

このような、親からの自由記述にある要望も含めて、この五十嵐の森チャレンジャーキャンプを是とも続けていき、より広めていきたいと決意を強くしたところである。

3. まとめ

- 今回の五十嵐の森チャレンジャーキャンプについて述べてきたが、次のようにまとめることができる。
- 新潟大学構内のキャンプ場で年間数多くのキャンプをすることにより、学生や子ども・親達にとっても有効であり、今後よりキャンプを広めていきたい。
 - 毎年チャレンジャーキャンプを実施することで、生涯スポーツとして野外教育プログラムの開発研究を行い地域社会との連携を深めることが必要である。
 - 五十嵐の森チャレンジャーキャンプの参加者を増やすためにも、募集要項の工夫が必要であり、誰にでもわかるように大学案内図にキャンプ場を載せて地域住民にアピールしていくことも重要である。

4. 参考文献

- ・新潟大学五十嵐の森キャンプサイトの利用開発について 2006 新潟大学教育人間科学部紀要 第9巻第1号
- ・野外活動テキスト 1996 杏林書院
- ・みんなのPA系ゲーム243 2005 杏林書院
- ・キャンププログラム2 1993 杏林書院